

コレクション展「山口の風を感じて」 作品リスト

周南市美術博物館

期間:4月23日(土)~6月19日(日)

※展示順 ※各作家の略歴は裏面に紹介しています。

No.	作家名	作品名【よみ方】	点数	制作年	材質	サイズ(縦×横 cm)
1	宮崎進	望郷	1	1958(昭和33)年頃	ドライポイント・紙	17.5x25.0
2	〃	【版画】 シベリア シリーズ 野ざらし(位置)	1	1960(昭和35)年頃	ドライポイント・紙	17.5x25.0
3	〃	虚空に叫ぶ(母の名を呼ぶ)	1	1960(昭和35)年頃	ドライポイント・紙	22.0x29.2
4	〃	老いた虜囚	1	1970(昭和45)年頃	ドライポイント・紙	20.0x14.7
5	〃	【版画】 芸人 シリーズ 大道芸の女	1	1965(昭和40)年	ドライポイント・紙	17.5x12.2
6	〃	夜祭り	1	1966(昭和41)年	ドライポイント・紙	11.8x17.8
7	〃	女たちの部屋	1	1970(昭和45)年	ドライポイント・紙	12.0x17.9
8	〃	踊るひと	1	1977(昭和52)年	ドライポイント・紙	16.0x25.3
9	田中稔之	円の光景(朱の舞)	1	1988(昭和63)年	油彩・キャンバス	130.5 x 162.2
10	河村純一郎	住めば都	1	1986(昭和61)	油彩・キャンバス	227.3 x 181.8
11	澤野文臣	堰【せき】	1	1959(昭和34)年	紙本彩色	150.0x 196.0
12	尾崎正章	出漁(瀬戸内漁港)	1	1972(昭和47)年	油彩・キャンバス	112.0 x 145.5
13	〃	夫婦漁船帰港 (ふるさとの潮入川)	1	1995(平成7)年	油彩・キャンバス	194.0 x 99.6
14	松林桂月	春秋二曲屏風(二曲一双)	2	昭和時代	(各)絹本彩色	(各)168.2 x 172.4
15	三輪栄造	男のネック	1	1988(昭和63)年	陶器	26.4 x 17.0 x 15.3
16	〃	トップブランド	1	1995(平成7)年	陶器	18.1 x 36.3 x 45.6
17	〃	リップスティック	1	1995(平成7)年	陶器	11.8 x 11.8 x 50.1
18	笹戸千津子	彫刻家 '95	1	1995(平成7)年	ブロンズ	22.5 x 25.5 x 36.0
19	岸田劉生	善種善果	1	1929(昭和4)年	紙本着色	132.0×63.0
20	香月泰男	虞美人草【ぐびじんそう】	1	1972(昭和47)年	油彩・キャンバス	39.5 x 23.0
21	〃	五月	1	1972(昭和47)年	油彩・キャンバス	40.0 x 23.3
22	松田正平	静物(果物)	1	不詳	油彩・キャンバス	23.1 x 32.1
23	〃	眠る人	1	1963(昭和38)年	油彩・キャンバス	78.8 x 113.3
24	<small>まえだばくじ</small> 前田麦二	600円の海老	1	1974(昭和49)年	油彩・キャンバス	24.2 x 33.3
25	〃	柿	1	不詳	油彩・キャンバス	31.8×41.0
26	久保克彦	自画像	1	不詳	水彩・紙	36.7×28.3
27	久保克彦	きんぎょをつばき	1	不詳	ポスターカラー・紙	32.0×23.0
28	久保克彦	ひまらやした	1	不詳	ポスターカラー・紙	30.2×23.0
29	久保克彦	からたちのとげ	1	不詳	ポスターカラー・紙	32.0×23.0
30	久保克彦	ごむの芽	1	不詳	ポスターカラー・紙	32.0×23.0
31	久保克彦	高貴石斛【こうきせっこく】	1	不詳	ポスターカラー・紙	32.0×23.0

計31件

計 32 点

—作家略歴—

●松林桂月(1876-1963)

萩生まれ。1894(明治 27)年野口幽谷に入門。1901(明治 34)年同門の松林孝子と結婚。松林姓を名乗る。日本芸術院会員、皇室技芸員、日展顧問をつとめた。’58(昭和 33)年文化勲章受章。

●岸田劉生(1891-1929)

東京生まれ。1908(明治 41)年白馬会葵橋研究所に入り黒田清輝に師事。やがて北欧ルネサンスの絵画に関心をもち細密な写実画に転じる。草土社を主宰。さらに「内なる美」をめざし、東洋美、日本美に傾倒。油彩、水彩だけでなく日本画も手がける。’29(昭和 4)年満州への旅行の帰途、徳山で病に倒れ死去。

●前田麦二(1891-1974)

下松生まれ。のち徳山に転居。1926(大正 15)年河上大二、久保白船らと徳山洋画協会を結成。’29(昭和 4)年に岸田劉生が徳山へ来た折には交流もあった。椿貞雄の勧めで’31(昭和 6)年に「小樽の風景」を国画会に出品し入選。戦後は’46(昭和 21)年に結成された防長美術家連盟に参加。’59(昭和 34)年徳山市文化功労者。’73(昭和 48)年に画集『徳山の思い出』出版。

●香月泰男(1911-1974)

東京美術学校（現・東京藝術大学）卒業後、美術教師として北海道、下関に赴任。1939（昭和 14）年第 14 回国画会国画奨学賞、第 3 回文展特選。’43(昭和 18)年に入隊。戦後捕虜となりシベリアに抑留。復員後、故郷の三隅町(現・長門市)に戻り、画家として再出発。「シベリヤ・シリーズ」が第 1 回日本芸術大賞を受賞するなど高く評価された。生涯三隅で絵を描き続けた。

●尾崎正章(1912-2001)

徳山町(現・周南市)生まれ。胸部疾患により日本大学文学部を中退。1938(昭和 13)年から美術工芸店勤務のかたわら本格的に絵を描き始め、春陽会展、一水会展に入選。’43(昭和 18)年に帰郷、戦後、安井曾太郎に師事。’46(昭和 21)年防長美術家連盟に参加。日展や一水会で活躍。’95(平成 7)年新南陽市(現・周南市)郷土美術資料館・尾崎正章記念館が開館。

●松田正平(1913-2004)

島根県鹿足郡青原村(現・津和野町)生まれ。1935(昭和 10)年帝展第二部会入選。’37(昭和 12)年東京美術学校(現・東京藝術大学)卒業、パリに留学。’39(昭和 14)年帰国。’45(昭和 20)年宇部市に帰郷、東見初炭鉱で働く。翌年光市へ転居、防長美術家連盟に参加。’51(昭和 26)年国画会会員。その後東京、千葉に転居。’84(昭和 59)年第 16 回日本芸術大賞受賞。’95(平成 7)年宇部に帰る。2002(平成 14)年文化庁長官表彰を受ける。

●澤野文臣(1914-2005)

徳山町(現・周南市)浦山生まれ。1937(昭和 12)年京都市立絵画専門学校卒業。同校研究科を経て、堂本印象の画塾、東丘社へ入る。’56(昭和 31)年第 12 回日展で特選白寿賞、翌年も連続受賞。’64(昭和 39)年日

展菊華賞。’69(昭和 44)年日展会員、東丘社理事。’68(昭和 43)年と’85(昭和 60)年には日展審査員。’ 92(平成 4)年山口県選奨。’96(平成 8) 年「詩情あふれる自然への眼差し 澤野文臣展」開催(徳山(現・周南市)美術博物館)。

●久保克彦(1918-1944)

熊本郡佐賀村(現・平生町)佐合島生まれ。父は俳人の久保白船。1920(大正 9)年に徳山に転居。’36(昭和 11)年徳山中学校卒業後上京。川端画学校に通う。’38(昭和 13)年東京美術学校(現・東京藝術大学)工芸科図案部入学。’42(昭和 17)年 9 月繰上げ卒業し、応召、入隊。’44(昭和 19)年、中国で戦死。卒業制作の「図案対象」は優秀作品として島田奨学資金賞を受賞、美術学校買い上げとなる。

●宮崎進(1922-2018)

徳山町（現・周南市）御弓町生まれ。1942(昭和 17)年日本美術学校油絵科を繰り上げ卒業、同年入隊、戦後捕虜となりシベリアに抑留される。復員後、上京。’67(昭和 42)年第 10 回安井曾太郎記念賞受賞。’81(昭和 56)年多摩美術大学教授。’95(平成 7)年小山敬三賞、’98(平成 10)年第 48 回芸術選奨文部大臣賞、2007(平成 19)年旭日小綬章受章。2009(平成 21) 年から周南市美術博物館名誉館長をつとめた。

●田中稔之(1928-2006)

防府市生まれ。1952(昭和 27)年行動展初入選。’59(昭和 34)年行動美術協会会員。’63～’65(昭和 38～40)年渡欧。’85(昭和 60)年多摩美術大学教授。安田火災東郷青児美術館大賞、山口県芸術文化功労賞受賞。市保健センター壁画「輝く海」など、県内の壁画、緞帳を制作。

●三輪米造(1946-1999)

11 代三輪休雪(壽雪)の次男。兄は 12 代三輪休雪。1970(昭和 45)年武蔵野美術大学彫刻科卒業後、伯父三輪休和の養子となる。萩焼の伝統的な茶陶を踏襲する一方で、卓越した造形力を駆使して新しい萩焼の可能性を追求。’87(昭和 62)年山口県芸術文化振興奨励賞。

●河村純一郎(1948-)

玖珂郡周東町(現・岩国市)生まれ。1970(昭和 45)年和光大学人文学部芸術科中退。’84(昭和 59)年行動展奨励賞、徳山市文化奨励賞。’86(昭和 61)年行動展 F 記念賞、安井賞入選。’91(平成 3)年山口県芸術文化振興奨励賞。’97(平成 9)年行動展田中忠雄賞。2007(平成 19)年山口県文化功労賞。行動美術協会会員。

●笹戸千津子(1948-)

彫刻家。徳山市（現・周南市）生まれ。東京造形大学美術学科彫刻専攻入学、佐藤忠良に師事。1971（昭和 46）年第 35 回新制作展に初出品、以後毎年出品。’73（昭和 48）年同大学研究室修了と同時に佐藤忠良のアトリエで制作開始。’77（昭和 52）年新制作協会会員。’87(昭和 62)年第 18 回中原悌二郎優秀賞、’93(平成 5)年第 7 回神戸具象彫刻大賞展招待出品、準大賞。’98(平成 10)年「ブロンズの華 笹戸千津子展」(徳山(現・周南市)美術博物館)開催。林忠彦賞受賞者に贈られるブロンズ像「爽」を制作。